

地域の課題を解決できる スタートアップ人材の育成

静岡県立浜松工業高等学校

全日制／工業科

この改革が必要な背景

- ものづくり県・静岡の生産年齢人口が2040年までの20年で**22%減少**と見込まれる中、工業科の**地元就職率が約7割**と低く、若者層の県外転出者の**約4割が希望する職場がないと回答**する等、**地元に戻らない**ことが課題
- 企業等と連携しながら**地域経済をけん引する新たな力**を創出できる人材が必要

事業概要（学びの変化）

「技術力はあるが、それをどう社会に役立てるか」 の意識変革と実践的な学び

- ✓ 次世代に必要とされるAIやロボティクスに加え、リーン・スタートアップ等の起業方法論を体系的に学習
- ✓ **生徒がチームごとに「仮想会社」を立ち上げ**、実社会で役立つ仕事の進め方・考え方等の実践的能力を習得

実践的な学びを単なる体験で終わらせず、大学入試やその先へ

- ✓ 生徒が開発した技術・アイデアは、**弁理士や研究者の助言**により特許・意匠出願、国際学会発表につなげ、就職・進学後に活かせる仕組みを構築
- ✓ 技術・アイデアを更に発展させるための大学探しや、事業化支援につなげるプログラムを実施
- ✓ 連携大学と、課題研究の成果を「**総合型選抜**」入試の**評価対象とする新たな高大接続モデル**を構築



地域企業の困りごとの解決策を製品化し販売する

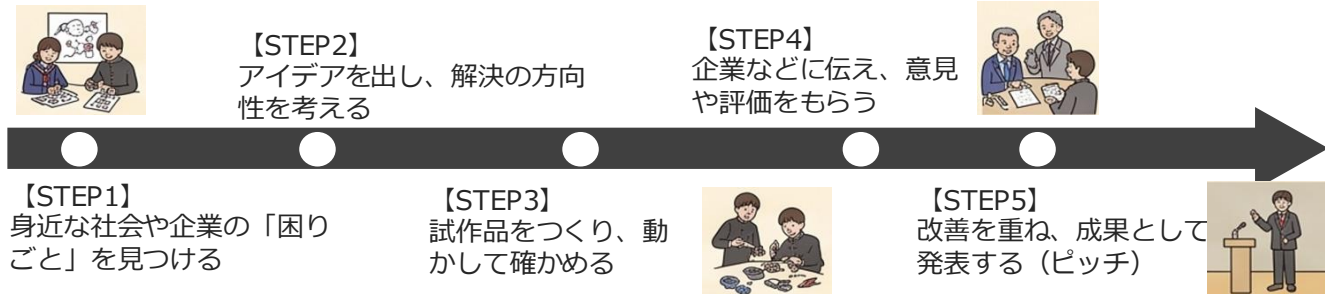
- ✓ **地元企業等から持ち込まれた課題**に対し、**企業の現役技術者（技術エキスパート）の指導**の下、解決策を製品として形にする学び（産学官連携PBL）を継続的に実施
- ✓ **高度なデータ分析スキルを習得**し、市場ニーズや競合製品を徹底的に分析して製品化する手法を実践
- ✓ 完成した製品をテスト販売するために、校内にアンテナショップ・EC拠点機能を整備

校内ピッチイベントを開催し、ビジネス視点を評価

- ✓ 精巧な工作から「社会にインパクトを与えるビジネス案」にシフトさせるため、使う人や社会のニーズを重視し、生徒が自分のアイデアを発表し評価を受ける場（**校内ピッチイベント**）を開催
- ✓ 国語・情報・美術等の教科の枠を超え、ビジネスで必須の「**伝える技術（ストーリーテリング）**」や**生成AIを用いた資料作成手法**を習得



＜生徒による製品開発の流れ（例）＞



高校生の 未来の姿 （指標の例）

研究テーマに関連する学部への総合型・学校推薦選抜による進学率

作成した試作品が、企業の本格的な製品化検討につながった件数

(R10)

60%

(R13)

80%

年5件

⇒ 年10件



他校への 普及方策

- ・カリキュラムや評価システムのオープンソース化
- ・「地域ハブ」として施設・設備を域内他校生徒へ開放など

主な 連携機関

静岡大学、浜松市、スズキ（株）、浜松商工会議所 ほか